

# 履修科目一覧表

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
						1年次		2年次		
						前期	後期	前期	後期	
計 画 系	◇	基礎デザイン	三木 庸善	建築を学ぶ上での素養となる基礎を、図法の演習を通して学ぶ。	2	2				30
	◇	インテリアデザイン	赤城 忠男	快適な生活環境を造るために、空間を内からとらえ、人間の心理や行動あるいは、スケールで捉えた空間・材料などの知識を講義する。	2		2			30
	◇	基礎・計画	湯浅 康生	建築設計をする基本となることを学ぶ、人はいかに建築してきたか、また高齢者・障害者を考えた建物はなにかを理解する。	2	2				30
	◇	建築計画Ⅰ	赤城 忠男	建築各論をする前に、必要となる計画のたて方や考え方の基本を学ぶ。	2		2			30
	◇	建築計画Ⅱ	赤城 忠男	建築物を設計するために、使いやすく、丈夫で、美しくなくてはならない。その建物を造るには、人間の生活をまず理解し、空間の規模、空間どうしのつながりは、どうなっているのかを学ぶ。	2			2		30
	◇	環境工学	高木 宣徳	環境工学では、温熱、光、空気、音などの諸環境を配慮した設計を行うための、基礎的な知識を養成する。	2	2				30
	◇	建築設備Ⅰ	山口 裕達	建築設備の基礎である給排水衛生設備、電気設備について行う。	2	2				30
	◇	建築設備Ⅱ	山口 裕達	建築設備の基礎である空調和設備について行う。	2		2			30
	◇	建築史	赤城 忠男	原始から現代までの建築様式の変遷の流れをとらえることにより、建築技術者として必要な常識を養い、自らの進路を開くための基礎とする。	2	2				30
	◇	設計特論	湯浅 康生	卒業設計を補完しながら、建築空間を創造していく上で必要な素養を学び、より完成度の高い作品を目指す。	2				2	30
	◇	総論計画	赤城 忠男	計画関係の総仕上げと二級建築士試験の練習を行い、問題を理解する。	2				2	30
	◇	建築法規Ⅰ	三村 重人	建築基準法、建築関係規定、建築・構造・設備等に関する諸法令の基礎的知識の習得。	2		2			30
	◇	建築法規Ⅱ	三村 重人	同上	2			2		30
◇	総論法規	三村 重人	建築法規の総括としての復習と、併せて建築士受験対策として問題集を中心とした演習を通じてより深い知識を習得する。	2				2	30	
構 造 系	◇	基礎・構造	石井さやか	建築における構造とは何か、また建築関係の仕事に、なぜ構造の知識が必要なのかを説明する。構造設計の役割を理解させる。	2	2				30
	◇	一般構造Ⅰ	實近 俊之	建築全般についての初歩的知識、また深い知識を得る前に、浅く広い知識を技術全体のバランスを取りながら身に付ける。	2	2				30
	◇	一般構造Ⅱ	實近 俊之	建築物を構成する部位別の構法（機能、名称、納まり等）及び、それらに使用する材料についての基礎知識を習得する。	2		2			30
	◇	木構造Ⅰ	石井さやか	木造建築の構造、構法に関する基本的な事項について、木造住宅を中心に講義する。	2		2			30
	◇	木構造Ⅱ	島村 鐵二	木構造Ⅰに続いて、木造住宅を中心に講義する。	2			2		30
	◇	鉄筋コンクリート造	熊城 正樹	鉄筋コンクリート造の構造計算について、部位ごとに実例を示しながら、説明する。特に中立軸について理解を深めさせたい。	2				2	30
	◇	鋼構造	熊城 正樹	鉄骨造の構造計算について、部位ごとに実例を示しながら、説明する。特に座屈に対する理解を深めさせたい。	2				2	30
	◇	構造力学Ⅰ	佃 茂樹	建築設計において構造とは何かを理解し、興味を持たせ基本的な骨組、力学を身に付ける。	4		4			60
	◇	構造力学Ⅱ	佃 茂樹	構造設計の重要性を理解し、実務及び建築士試験に役立つ能力を身に付ける。	4				4	60
	◇	建築材料	高木 宣徳	建築に用いられる材料はきわめて範囲が広い、建築構造の基材となる木材、鋼材、コンクリートについて講義する。	2	2				30
◆	材料実験	湯浅 康生	建築材料の中で、代表的なもの（木材、セメント、コンクリート、鋼材）を取り上げ、その力学的性質、化学的性質などを、実験を通して体験する。また、それぞれの材料がもつ特性を相互に比較検討し、より理解を深める。	1				2	30	
◇	総論構造	植田 晋也	構造関係の総仕上げと二級建築士試験の練習を行う。建築構造のおもしろさに改めて注意を喚起し、さらに構造力学を勉強したい学生のために、力学の入口、曲げ理論をきちんと解説する。	2				2	30	

授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
					1年次		2年次		
					前期	後期	前期	後期	
施工系	◇ 建築施工Ⅰ	中山 竜宏	建築工事の内、鉄筋コンクリート系工事、鉄骨系工事、内外装工事に関して教科書、ビデオによる講義、現場見学等を通じて知識を習得していく。	2		2			30
	◇ 建築施工Ⅱ	中山 竜宏	建築工事の内、鉄筋コンクリート系工事、鉄骨系工事、内外装工事に関して教科書、ビデオによる講義、現場見学等を通じて知識を習得していく。	2			2		30
	◆ 施工図	島崎 潤	コンクリート寸法図や各種工事の現寸図などの施工図の内容を理解すると共に、コンクリート寸法図の作成ができるようにする。	1				2	30
	◇ 建築積算Ⅰ	倉西 透	建築物のライフサイクルコストを総合的に把握する上で、費用・価格・コスト管理は重要要素の一つであり、その役割を担うのが積算である。ここでは、数量積算に主体を置き講義する。	2			2		30
	◇ 建築積算Ⅱ	倉西 透	積算Ⅰに引き続き躯体、仕上げの数量積算について講義する。さらには建築積算士に挑戦する基礎作りとする。	2				2	30
	◆ 建築測量実習	高木 宣徳	建築測量は、各種工事の計画・設計、施工などに対し重要な指針を与えるものである。そのため、測量技術の概要を理解させることを主題とする。	1	2				30
	◇ 総論施工	高木 宣徳	建築施工の総仕上げと二級建築士試験の練習を行う。	2				2	30
設計製図・CAD系	◆ 基礎製図	竹下 和宏	教科書にもとづく、木造の製図実習を通して、図面を読む力と製図する力の基礎的な習得をめざす。	2	4				60
	◆ 設計製図Ⅰ	竹下 和宏	教科書にもとづく、木造の矩計図および鉄筋コンクリート造の製図実習を通して、図面を読む力と製図する力のステップアップをめざす。	2		4			60
	◆ 設計製図Ⅱ	赤澤 輝彦	1年次において修得した製図の基礎、図面の表現方法等をもとに、与えられた計画条件により設計、製図を行う。期間中2～3課題を提出する。	2			4		60
	◆ 設計製図Ⅲ	高木 宣徳	二級建築士の製図試験に備え、与えられた諸条件を正確に理解し、設計できるようにする。	1			2		30
	◆ 卒業設計	赤澤 輝彦	これまで個々の講義で修得してきた知識の集大成としての建築作品を制作することを目的とする。またテーマやそれに基づく諸々の条件を各自で設定することによって、より自由度と完成度の高い作品を目指す。	2				4	60
	◆ CAD実習Ⅰ	吉見 芳也	この授業では、建物や空間のアイデアを練るためのツールとして、またプレゼンテーションとしてのCAD利用にスポットをあて、そのスキルを実習を通して学びます。	1	2				30
	◆ CAD実習Ⅱ	高尾 光俊	二次元汎用CADによる、CAD製図の実習。	1		2			30
	◆ CAD実習Ⅲ	高尾 光俊	二次元汎用CADの基本操作をふまえ、より実践的なCADの使用方法を学ぶ。	1			2		30
	◆ CAD実習Ⅳ	高尾 光俊	CAD実習Ⅰからの集大成としてドローイングからプレゼンテーションまでを行う。また、卒業設計を補完しながら統合的に表現する技術も同時に学ぶ。	1				2	36
	▲ インターンシップ実習		インターンシップ等	1		2			30
必要修得単位数・時間数				80	24	24	24	24	1,440

◇必修講義科目 ◆必修実習科目 ▲選択実習科目

## 講義内容

授業科目	基礎デザイン				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	三木 麻善 実務経験：デザイン建築事務所主宰				
2. 授業目的	建築を学ぶ上での素養となる基礎を、図法を通して学ぶ。				
3. 達成目標	自由設計の完成予想図(透視図)を作製できるように習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	平素より美意識を磨く。				
5. テキスト	建築の透視図法／長尾勝馬／学芸出版社				
6. 参考書					
7. 成績評価	提出課題の完成度、授業態度等を含め総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	透視図基本用語				
2 回	点、直線の透視図法の説明				
3 回	点、直線の透視の応用				
4 回	平行透視足線法				
5 回	建築物の平行足線透視法				
6 回	住宅の平行足線透視法				
7 回	室内の平行足線透視法				
8 回	平行透視 45 法、基本図法				
9 回	住宅平行 45° 法				
10 回	成角透視図法の説明、基本図法				
11 回	正六面体の成角透視図法				
12 回	建物の成角透視図法				
13 回	建物の成角透視に射す陰影				
14 回	小住宅の成角透視図法				
15 回	多面建物の成角透視図法				
備考					

## 講義内容

授業科目	インテリアデザイン				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	赤城 忠男 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	インテリアデザインとは、室内を内から捉え、その中で生活する人間の側から考えて考えることである。快適な生活環境を創るにはどのようなことが必要かを学ぶ。				
3. 達成目標	インテリアデザインの基礎的な内容を理解した上で、空間や材料についての知識を把握する。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常生活において、住宅や店舗・公共施設などのインテリアに興味や関心を持つ。				
5. テキスト	インテリアデザイン教科書／インテリアデザイン教科書研究会編著／彰国社				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に、出席状況・受講態度・提出物等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	インテリアデザインとは				
2 回	日本の住まいとインテリアの変遷				
3 回	西洋のインテリアと家具様式の変遷				
4 回	人間工学の意味と人体寸法、家具設備への人間工学の応用				
5 回	インテリアの安全性、形・色・テクスチャーの心理				
6 回	人間的尺度と空間の心理、家具				
7 回	照明				
8 回	材料と仕上げ				
9 回	インテリアの構法				
10 回	室内環境計画とその制御				
11 回	住空間計画(1)				
12 回	住空間計画(2)				
13 回	高齢者の空間				
14 回	子供の空間				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	基礎・計画				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 康生 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築を学ぶ上で必要な3つの素養(①スケール感 ②立体把握 ③スケッチ)を身につけ、建築計画の基礎となる空間の見え方や考え方について学ぶ。				
3. 達成目標	3つの素養の基本的な考え方を理解することと、演習により身に付けた基礎的なトレーニングを実践できること。				
4. 授業時間外に必要な学修	演習で身につけたトレーニングを実際に活用して、身体尺を使っての長さの測定やスケッチを試みること。				
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	演習課題や聴講態度などを総合的に判断して評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション 建築の発生と発達の要因				
2回	身体尺①				
3回	身体尺②				
4回	三面図				
5回	かたちと幾何学①				
6回	かたちと幾何学②				
7回	錯視①				
8回	錯視②				
9回	スライドスケッチ				
10回	建築家研究①				
11回	建築家研究②				
12回	建築家研究③				
13回	言葉と建築①				
14回	言葉と建築②				
15回	まとめとレポート				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築計画 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	赤城 忠男 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	建築計画Iでは、社会の発展にともなって多種多様な建築が生み出されるようになり、それに対応できる必要な空間をもつ建築を創造できるように学ぶ。				
3. 達成目標	建築計画の基礎知識を修得し、サステイナブルな建築を創造できるようにする。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近な建物の実物や写真を見て、造形的な美しさや生活のしやすい空間を構成できるように自ら感じ応用できるようにする。				
5. テキスト	初めて学ぶ「建築計画」 学芸出版				
6. 参考書	「建築計画」 市ヶ谷出版				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	建築とは				
2回	建築計画の条件の把握				
3回	建築デザインの意義				
4回	構造計画				
5回	設備計画				
6回	これからの建築				
7回	サステイナブル建築				
8回	建築と風土				
9回	建築と都市・文化				
10回	寸法の計画				
11回	空間の計画				
12回	デザインの要素				
13回	空間構成の要素				
14回	環境の計画				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築計画Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	赤城 忠男 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	建築計画Ⅱでは、建築物の設計にあたりビルディングタイプごとに各施設の社会的背景や平面形成、運営方式を学んでいく。				
3. 達成目標	ビルディングタイプの課題を資料やコラムなどを参考に組み組めるようになること。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常的に建築設計例を参考に設計課題に取り組んでいく。				
5. テキスト	初めて学ぶ「建築計画」 学芸出版				
6. 参考書	「建築計画」 市ヶ谷出版				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	居住施設の計画				
2回	集合住宅の計画				
3回	学校教育施設の計画 幼稚園、保育園				
4回	学校教育施設の計画 小中学校				
5回	図書館				
6回	美術館、コミュニティーセンター				
7回	病院				
8回	高齢者施設				
9回	事務所				
10回	劇場、音楽ホール				
11回	百貨店、スーパーマーケット、商店				
12回	宿泊施設				
13回	駐車場				
14回	外部空間				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築史				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	赤城 忠男 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	原始から現代までの建築様式の変遷の流れをとらえることにより、建築技術者として必要な常識を養い、自らの進路を開くための基礎とする。				
3. 達成目標	建築物の歴史を知ることによって人類の歩みを理解し、建築を好きになること。				
4. 授業時間外に必要な学修	建築様式を理解するために実在する建築物を見たり、参考資料を調べることにより常識を養う。				
5. テキスト	建築史 増補改訂版／藤岡通夫、渡辺保忠、桐敷真次郎、平井聖、河東義之、斎藤哲也／市ヶ谷出版				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	日本古代の建築				
2回	飛鳥・奈良時代の仏寺建築				
3回	平安時代の仏寺建築				
4回	日本中世の建築、新しい仏寺様式、和様と新様式				
5回	日本近代の建築、城郭建築				
6回	近世の住宅、数寄屋建築、茶室、霊廟建築				
7回	西洋建築史、西洋古代の建築、エジプト建築				
8回	オリエント建築、ギリシャ建築				
9回	ローマ建築				
10回	西洋中世の建築、ビザンチン建築				
11回	ゴシック建築				
12回	ルネッサンス建築				
13回	バロック建築				
14回	まとめ				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	環境工学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築に関わる環境を理解するとともに、自然が建築に及ぼす影響とその対策について把握すること。				
3. 達成目標	建築環境工学の基礎である、太陽、光、色彩、換気、熱、空気、音の環境について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常の生活の中で、建物と自然環境との繋がりや影響を認識すること。				
5. テキスト	初学者の建築講座「建築環境工学」／倉淵隆 著／市ヶ谷出版				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築環境工学とは何か、都市、地球の環境				
2 回	日射、日照(1)、太陽位置				
3 回	日射、日照(2)、日影				
4 回	光環境、照度、採光				
5 回	照明計画、照度計算				
6 回	色彩				
7 回	中間試験				
8 回	空気環境(1)、換気、換気計算				
9 回	空気環境(2)、換気計画				
10 回	熱環境(1)、伝熱の基本事項				
11 回	熱環境(2)、熱量計算				
12 回	熱環境(3)、湿気と結露				
13 回	音環境 基本事項、騒音、遮音と室内音響				
14 回	演習問題、まとめ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築設備 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	山口 裕達 実務経験：建築設備設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築における、建築設備の分野を理解し、その役割と重要性を習得する。				
3. 達成目標	建築設備の基礎として、給排水衛生設備・電気設備について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常の生活の中で、設備の役割を理解するとともに、生活との関わりを認識すること。				
5. テキスト	初学者の建築講座「建築設備」／大塚雅之 著／市ヶ谷出版				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築設備の概要、給水				
2 回	給水方式				
3 回	給水配管、機器				
4 回	給湯設備				
5 回	衛生器具				
6 回	排水設備				
7 回	排水トラップ				
8 回	通気設備				
9 回	浄化槽				
10 回	電気設備と電気の供給				
11 回	電気設備の計画				
12 回	配線、分電盤				
13 回	照明、弱電設備				
14 回	まとめ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築設備Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	山口 裕達 実務経験：建築設備設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築における、建築設備の分野を理解し、その役割と重要性を習得する。				
3. 達成目標	建築設備の基礎として、空調和設備について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常生活の中で、設備の役割を理解するとともに、生活との関わりを認識すること。				
5. テキスト	初学者の建築講座「建築設備」／大塚雅之 著／市ヶ谷出版				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	空調設備の概要				
2回	冷房				
3回	暖房				
4回	空気線図				
5回	空調方式				
6回	空調の計画				
7回	暖房設備				
8回	換気設備				
9回	冷凍機				
10回	ヒートポンプ				
11回	空調機器				
12回	演習問題				
13回	問題と解説				
14回	まとめ				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	設計特論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 康生 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	これまで個々の講義で修得してきた知識の知識の集大成としての建築作品を制作することを目的とする。また、テーマやそれに基づく諸条件を各自で設定することによって、より自由度と完成度の高い作品を目指す。				
3. 達成目標	自分の設計した作品がより多くの人々の共感を得られるために完成度をあげる。				
4. 授業時間外に必要な学修	自分の設定した課題の関連建築物の見学と共により多くの参考建築物の資料収集。				
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	課題の提出、出席状況				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション				
2回	テーマの決定				
3回	基本事項のまとめ(1)				
4回	基本事項のまとめ(2)				
5回	エスキース				
6回	エスキース				
7回	エスキース				
8回	エスキース				
9回	ドローイング				
10回	ドローイング				
11回	ドローイング				
12回	ドローイング				
13回	ドローイング				
14回	ドローイング				
15回	予備日				
備考					

## 講義内容

授業科目	総論計画				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	赤城 忠男 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	二級建築士の学科試験対策と二年間の学習知識を復習する授業であり、過去の試験問題を解説して試験に必要な知識を得る。				
3. 達成目標	計画分野について必要な知識を再確認する。				
4. 授業時間外に必要な学修	難解な問題について、教科書や資料を調べることで、より深い知識を身につける。				
5. テキスト	学科厳選問題集 500+100 / 総合資格学院				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	計画原論 (1)				
2 回	計画原論 (2)				
3 回	計画原論 (3)				
4 回	計画原論 (4)				
5 回	計画原論 (5)				
6 回	計画各論 (1)				
7 回	計画各論 (2)				
8 回	計画各論 (3)				
9 回	計画各論 (4)				
10 回	建築設備 (1)				
11 回	建築設備 (2)				
12 回	建築設備 (3)				
13 回	建築設備 (4)				
14 回	建築史				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築法規 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	三村 重人 実務経験：岡山県庁勤務				
2. 授業目的	建築基準法・建築基準関係規定及び建築関係法令の建築・構造・設備に関する基礎的知識の習得。				
3. 達成目標	建築基準法令及び建築関連法令（建築士法・バリアフリー法・消防法・都市計画法・住宅品質確保法・建築物省エネ法・長期優良住宅普及促進法等）を解説する基礎的知識の習得。				
4. 授業時間外に必要な学修	他の授業科目の履修に際しても、建築基準法等の関連条文を確認・照合する習慣とし、より理解を深めることに努めて欲しい。また、日常業務に関連する箇所はより理解を深めて欲しい。				
5. テキスト	○基本建築関連法令集〔法令編〕／編集 国土交通省住宅局建築指導課他／井上書院〔青本〕 ○建築法規用教材／日本建築学会／丸善出版 ○プリント				
6. 参考書	○逐条解説 建築基準法／ぎょうせい ○建築物の構造関係技術基準解説書〔黄本〕／編集 建築行政情報センター・建築防災協会				
7. 成績評価	出席状況・授業態度・練習問題・期末試験を総合して評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築法規のあらまし（起源・意義・体系、基本用語、面積・高さ 練習問題）				
2 回	手続規定（あらまし、着工前、工事中、使用中、適用除外・緩和 練習問題）				
3 回	単体規定Ⅰ 一般構造・建築設備（室内環境、衛生、日常安全 練習問題）				
4 回	単体規定Ⅱ 構造強度①（構造設計と構造規定、一般的な規定 練習問題）				
5 回	単体規定Ⅲ 構造強度②（木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造等の構造規定 練習問題）				
6 回	単体規定Ⅳ 構造強度③（構造計算の方法、敷地の安全性 練習問題）				
7 回	単体規定Ⅴ 防火と避難（火災の拡大防止対策、避難対策 練習問題）				
8 回	集団規定Ⅰ 集団規定の目的、道路（種類と基準、敷地との関係、道路内の建築制限 練習問題）				
9 回	集団規定Ⅱ 土地利用（用途地域、防火・準防火 練習問題）				
10 回	集団規定Ⅲ 密度規定（意図、容積率、建蔽率 練習問題）				
11 回	集団規定Ⅳ 形態規定（意図、絶対高さ・道路・隣地・北側高さの制限、日影規制 練習問題）				
12 回	集団規定Ⅴ 良好なまちづくり（地区計画・総合設計制度等、建築協定制度 練習問題）				
13 回	関係法規Ⅰ 建築士法、建設業法、消防法、耐震改修促進法、都計法・宅造法 練習問題				
14 回	関係法規Ⅱ 住宅品質確保法、長期優良住宅法、建築物省エネ法、バリアフリー法他 練習問題				
15 回	期末試験（基本建築関係法令集〔法令編・告示編〕の持ち込み可）				
備考	毎回の条文の読み込みの復習、条文の趣旨確認に心懸けてください。				



## 講義内容

授業科目	建築法規Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	三村 重人 実務経験：岡山県庁勤務				
2. 授業目的	建築基準法・建築基準関係規定及び建築関係法令の建築・構造・設備に関する知識の拡大				
3. 達成目標	建築基準法令及び建築関連法令（建築士法・バリアフリー法・消防法・都市計画法・住宅品質確保法・建築物省エネ法・長期優良住宅普及促進法等）へ読解力を深める。本番の試験へ備える。				
4. 授業時間外に必要な学修	他の授業科目の履修に際しても、建築基準法等の関連条文を確認・照合する習慣とし、より理解を深めることに努めて欲しい。また、日常業務に関連する箇所は、理解をより一層深めて欲しい。				
5. テキスト	○基本建築関連法令集〔法令編〕／編集 国土交通省住宅局建築指導課他／井上書院〔青本〕 ○建築法規用教材／日本建築学会／丸善出版 ○プリント				
6. 参考書	○逐条解説 建築基準法／ぎょうせい ○建築物の構造関係技術基準解説書〔黄本〕／編集 建築行政情報センター・建築防災協会				
7. 成績評価	出席状況・授業態度・課題問題・期末試験を総合して評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築法規のあらまし（起源・意義・体系、基本用語、面積・高さ 確認問題）				
2 回	手続規定（あらまし、着工前、工事中、使用中、適用除外・緩和 確認問題）				
3 回	単体規定Ⅰ 一般構造・建築設備（室内環境、衛生、日常安全 確認問題）				
4 回	単体規定Ⅱ 構造強度①（構造設計と構造規定、一般的な規定 確認問題）				
5 回	単体規定Ⅲ 構造強度②（木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造等の構造規定 確認問題）				
6 回	単体規定Ⅳ 構造強度③（構造計算の方法、敷地の安全性 確認問題）				
7 回	単体規定Ⅴ 防火と避難（火災の拡大防止対策、避難対策 確認問題）				
8 回	集団規定Ⅰ 集団規定の目的、道路（種類と基準、敷地との関係、道路内の建築制限 確認問題）				
9 回	集団規定Ⅱ 土地利用（用途地域、防火・準防火 確認問題）				
10 回	集団規定Ⅲ 密度規定（意図、容積率、建蔽率 確認問題）				
11 回	集団規定Ⅳ 形態規定（意図、絶対高さ・道路・隣地・北側高さの制限、日影規制 確認問題）				
12 回	集団規定Ⅴ 良好なまちづくり（地区計画・総合設計制度等、建築協定制度 確認問題）				
13 回	関係法規Ⅰ 建築士法、建設業法、消防法、耐震改修促進法、都計法・宅造法 確認問題				
14 回	関係法規Ⅱ 住宅品質確保法、長期優良住宅法、建築物省エネ法、バリアフリー法他 確認問題				
15 回	期末試験（基本建築関係法令集〔法令編・告示編〕の持ち込み可）				
備考					

## 講義内容

授業科目	総論法規				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	三村 重人 実務経験：岡山県庁勤務				
2. 授業目的	建築基準法及び建築関係法令の主旨の再確認、及び建築士試験の出題趣旨の理解				
3. 達成目標	建築法規の過去問における出題主旨を適切に把握することにより、関係法と関係条文へスピーディにアクセスすることができ、持ち込みの法令集による短時間での正誤判断が行えること。				
4. 授業時間外に必要な学修	他の総論科目の履修に際しても、建築法規の過去問との関連を確認・照合する習慣とし、過去問相互の理解をより一層深めて確実なもの欲しい。				
5. テキスト	○学科 厳選問題集 500 + 100 / 総合資格学院 ○プリント				
6. 参考書	○基本建築関連法令集〔法令編〕／編集 国土交通省住宅局建築指導課他／井上書院〔青本〕 ○建築法規用教材／日本建築学会／丸善出版 ○建築法規Ⅰ・Ⅱで配布のプリント				
7. 成績評価	出席状況・授業態度・練習問題・期末試験を総合して評価します。				
授業内容とスケジュール					
1 回	総則・手続Ⅰ ①用語の定義 ②確認申請・建築手続 確認問題				
2 回	総則・手続Ⅱ ③面積・高さ等の算定 確認問題				
3 回	単体規定Ⅰ ④一般構造 採光、換気、飛散・発散措置、階段、床・天井高さ 確認問題				
4 回	単体規定Ⅱ ⑤耐火・防火 ⑥防火地域・準防火地域 確認問題				
5 回	単体規定Ⅲ ⑦防火区画 ⑧避難施設 ⑨内装制限 確認問題				
6 回	単体規定Ⅳ ⑩構造計算・構造強度Ⅰ 確認問題				
7 回	単体規定Ⅴ（構造強度Ⅱ 確認問題）				
8 回	集団規定Ⅰ ⑪敷地等と道路 ⑫用途地域 確認問題				
9 回	集団規定Ⅱ ⑬建蔽率 ⑭容積率 確認問題				
10 回	集団規定Ⅲ ⑮高さ制限 ⑯日影規制 確認問題				
11 回	集団規定Ⅳ ⑰雑則・その他の規定 確認問題				
12 回	関係法令Ⅰ ⑱建築士法 ⑲バリアフリー法 ⑳建築物耐震改修促進法 確認問題				
13 回	関係法令Ⅱ ㉑住宅品質確保促進法 ㉒都計法・宅造法 ㉓長期優良住宅普及促進法 確認問題				
14 回	関係法令Ⅲ ㉔消防法 ㉕建設業法 ㉖建築物省エネ法 ㉗その他 ㉘全体の見返り 確認問題				
15 回	期末試験（基本建築関係法令集〔法令編・告示編〕の持ち込み可）				
備考	毎回の確認問題の出題主旨の把握・根拠条文の確認、頻出肢を把握する。				

## 講義内容

授業科目	基礎構造				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	石井 さやか 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	身近な材料を使って実験しながら、構造の基本である「曲がる」「折れる」などの事象について学び、構造のおもしろさと大切さを知ってもらう。				
3. 達成目標	授業内容や実験を通して少しでも構造に興味を持ってもらい、構造の基本的な内容を理解すること。				
4. 授業時間外に必要な学修	多くの建築物を実際に見学し、どのような構造体で成り立っているのか考えてみる。				
5. テキスト	自作プリント				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況、聴講態度、期末試験の結果により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築の構造・荷重				
2 回	構造材料と構造種別・組積造アーチ実験				
3 回	構造材料と構造種別・鐘撞堂模型の組立実験				
4 回	構造形式				
5 回	力の釣り合い				
6 回	応力の基本状態				
7 回	曲げ理論①・曲げ実験				
8 回	曲げ理論②・梁の破壊実験				
9 回	たわみ理論①・たわみ実験				
10 回	たわみ理論②				
11 回	床梁の設計				
12 回	座屈理論①・座屈実験				
13 回	座屈理論②				
14 回	まとめ演習				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	木構造 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	石井 さやか 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	最も身近な建築物といえる木造住宅に関する内容を中心に、その架構や歴史的背景、実務経験に役立つ構造計画の知識を身につける。				
3. 達成目標	講義や実験を通して木構造に興味を持ってもらい、木構造の基本的な内容を理解すること。				
4. 授業時間外に必要な学修	多くの建築物を実際に見学し、どのような構造体で成り立っているのか考えてみる。				
5. テキスト	改訂版 木造建築－住宅設計の実務－／里川長生 著／理工図書				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況、聴講態度、期末試験				
授業内容とスケジュール					
1 回	屋根①				
2 回	屋根②				
3 回	柱と座屈①				
4 回	柱と座屈②				
5 回	平面と間取り				
6 回	木造住宅各部説明①				
7 回	木造住宅各部説明②				
8 回	木造住宅の耐震化対策				
9 回	筋交による耐震壁				
10 回	令 46 条壁量計算①				
11 回	令 46 条壁量計算②				
12 回	令 46 条壁量計算③				
13 回	まとめ演習①				
14 回	まとめ演習②				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	木構造Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	島村 鐵二 実務経験：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	木造の構造技術の要点とデザインの諸要素の学習。				
3. 達成目標	木造の構造、意匠の設計の基本を身に着けること。				
4. 授業時間外に必要な学修	できるだけたくさんの建築事例を見ること。				
5. テキスト	改訂版 木造建築－住宅設計の実務－／里川長生 著／理工図書、資料配布				
6. 参考書					
7. 成績評価	試験の評点を基準にし、受講態度などの評価を加える。				
授業内容とスケジュール					
1 回	日本の建築家紹介、数学の一部解説				
2 回	日本の民家研究の事例を取り上げる、各地の民家の写真、図面を紹介				
3 回	伝統木造の構造を解説し、知識を深める				
4 回	関数の考え方を学習する。その演習				
5 回	梁の曲げ、曲げ理論、内部応力度				
6 回	梁の曲げ、たわみ公式とその応用				
7 回	圧縮材の座屈、オイラーによる解明と座屈公式				
8 回	色々な形、デザインの諸要素(1)				
9 回	現代建築運動から始まる諸建築運動の歴史				
10 回	梁の配置練習、横架材間距離と柱の小径、柱の決定の仕方				
11 回	耐風、耐震壁、壁量の計算の仕方				
12 回	耐風、耐震壁、設計の演習				
13 回	建築デザインの諸要素(2)、多くのデザイン事例の紹介				
14 回	木造の継手と仕口、および全体の復習				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	一般構造Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	實近 俊之 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築物の構造の構成や仕組みについて、より専門的な知識を習得する前段階としての基本的な知識を浅く広い内容で身に付ける事を目的とする。				
3. 達成目標	各構法の特徴と、その構法選定の為に必要な事と優先すべき内容について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	より理解を深める為、街中の工事現場を可能な限り覗いてみたり、ホームセンターなどで本物の建材を手にとってみるなど『実物』に触れる機会を多くもつ。				
5. テキスト	「建築構法」 第五版／内田祥哉 編著／市ヶ谷出版社				
6. 参考書	「ビジュアルハンドブック必携建築資料」／実教出版				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築物とな何か、建築物の性能と構成、躯体と構造方式				
2 回	構造方式の具体例				
3 回	荷重と外力				
4 回	力の流れ、耐震・制振・免震				
5 回	鉄骨造(建築材料としての鋼材の特徴と鉄骨造の特徴)				
6 回	鉄骨造(接合部)				
7 回	鉄骨造(構法の具体例と特徴)				
8 回	鉄筋コンクリート造(構造原理とコンクリートの性質)				
9 回	鉄筋コンクリート造(配筋の原理、型枠の仕組み)				
10 回	鉄筋コンクリート造(構法の具体例と特徴)				
11 回	プレキャストコンクリート造、プレストレスとコンクリート造				
12 回	鉄骨鉄筋コンクリート造、組積造				
13 回	木造				
14 回	一般構造Ⅰの講義内容のまとめ				
15 回	期末テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	一般構造Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	實近 俊之 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築物を構成する部位別の構法や性能、及び、それらの使用材料についての基礎知識を習得する事を目的とする。				
3. 達成目標	各構法毎の特徴と、その構法選定の為に必要な事と優先すべき内容について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	建物(自宅・学校・職場・店舗)をただ漠然と使用するのではなく、壁や床、窓や建具などがどのような素材や仕組みになっているかを、触る、叩く、動かすなど常に観察する意識を持つ。				
5. テキスト	「建築構法」第五版／内田祥哉 編著／市ヶ谷出版社				
6. 参考書	「ビジュアルハンドブック必携建築資料」／実教出版				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	地業とは何か、地盤調査の種類				
2 回	地業の種類、基礎の機能と形状				
3 回	屋根の機能と性能、屋根の構成と形状、勾配屋根の葺き材				
4 回	勾配屋根の葺き材、各部の納まり				
5 回	陸屋根の構成と防水、各部の納まり				
6 回	壁の機能と性能、壁の構成、壁の仕上げ				
7 回	壁の仕上げ				
8 回	帳壁				
9 回	開口部と建具				
10 回	床の機能と性能、床の構成と仕上げ				
11 回	階段の機能と性能、階段の構法				
12 回	天井の機能と性能、天井の構成、天井の仕上げ				
13 回	造作、設計プロセスと構法				
14 回	一般構造Ⅱの講義内容のまとめ				
15 回	期末テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	構造力学Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(後期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	佃 茂樹 実務経験：構造設計事務所主宰				
2. 授業目的	数値をシンプルに捉えていき、構造力学の処理する上でのものさしを習得し、応用に適応できるようにする。頭の中での暗算をきっちり紙に過程を書き込んで、自分のビジョンを自分にそして相手にプレゼンテーションできるようにする。				
3. 達成目標	実務・現場においての構造的視点の観察力をつくること、建築士試験における構造に対する処理力をつくること。				
4. 授業時間外に必要な学修	「①準備・段取り→②シンプルにするための処理(分解・合成)→③見直し」を日常・仕事に対しての数値や作法等の処理方法を活用していく。				
5. テキスト	自作のテキスト(過去の2級・1級の過去問等を含む)				
6. 参考書	改訂版 図説 やさしい構造力学／学芸出版社				
7. 成績評価	期末試験の評点に出欠・受講態度を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	構造設計・構造力学とは、計算問題における算術について				
2 回	構造計算における基本的算数、建築における「構造」の位置づけ、実施物件例				
3 回	力の基礎(定義)について				
4 回	合力のモーメント=分力のモーメントの総和というルールについて				
5 回	力のつり合いという基本ものさしについて				
6 回	支点と反力について(1) 単純梁(集中・等分布荷重)				
7 回	支点と反力について(2) 単純梁(モーメント荷重)・片持梁				
8 回	支点と反力について(3) ラーメン・ヒンジのあるラーメン				
9 回	応力(内力)について(1) せん断力 単純梁・ラーメン				
10 回	応力(内力)について(2) 曲げモーメント 単純梁				
11 回	応力(内力)について(3) 曲げモーメント ラーメン				
12 回	応力(内力)について(4) 曲げモーメント・せん断力 片持梁・単純梁 モーメント荷重等				
13 回	応力(内力)について(5) 曲げモーメント 片持梁系ラーメン・演習				
14 回	総まとめ・演習				
15 回	期末テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	構造力学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(前期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	佃 茂樹 実務経験：構造設計事務所主宰				
2. 授業目的	数値をシンプルに捉えていき、構造力学の処理する上でのものさしを習得し、応用に適応できるようにする。頭の中での暗算をきっちりと紙に過程を書き込んで、自分のビジョンを自分にそして相手にプレゼンテーションできるようにする。				
3. 達成目標	実務・現場における構造的観点の観察力をつくること、建築士試験における構造に対する処理力を身につけること。				
4. 授業時間外に必要な学修	「①準備・段取り→②シンプルにするための処理(分解・合成)→③見直し」を日常・仕事に対しての数値や作法等の処理方法を活用していく。				
5. テキスト	自作のテキスト(過去の2級・1級の過去問等を含む)				
6. 参考書	改訂版 図説 やさしい構造力学/学芸出版社				
7. 成績評価	期末試験の評点に欠欠・受講態度を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	構造力学Ⅰの見直し、トラスの解法について(1)				
2 回	トラスの解法について(2)				
3 回	断面に関する数量について(1) 断面一次モーメント				
4 回	断面に関する数量について(2) 断面二次モーメント				
5 回	応力度、座屈について				
6 回	ひずみ度とたわみについて				
7 回	不静定構造の概念と基本事項				
8 回	不静定ばりの変形				
9 回	不静定構造の解法、固定モーメント法の基礎				
10 回	固定モーメント法(1)(演習問題)				
11 回	固定モーメント法(2)(演習問題)、塑性解析について				
12 回	荷重と外力について 荷重・外力全般、地震力・風圧力				
13 回	実務における荷重の流れのつかみ方及び断面算定の演習、意匠図における構造図例の説明				
14 回	総まとめ・演習				
15 回	期末テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	鉄筋コンクリート造				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	熊城 正樹 実務経験：意匠、構造設計事務所主宰				
2. 授業目的	難しいと考えがちな構造計算について、デザインと構造の繋がり。計算式条件等の意味を理解して、構造計算に少しでも興味を持ってもらうこと。				
3. 達成目標	施主との打ち合わせで、押さえて起きたい、構造関係の設計条件を理解し、鉄筋コンクリート造の基本算定式を押さえて、応用の為の基礎を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	身の回りの建物の意匠デザインと、風荷重、地震荷重、積雪荷重等との、関連性について、注意を向けて、考えることが出来る様になることが望ましい。				
5. テキスト	図説 やさしい構造設計/浅野清昭/学芸出版				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	鉄筋コンクリート造の特徴、建築基準法との関連				
2 回	構造計画(断面仮定の方法)				
3 回	荷重について(固定荷重、積載荷重)				
4 回	ラーメン材の剛度、剛比				
5 回	地震力について				
6 回	地震力の計算				
7 回	D値法によるラーメンの計算				
8 回	ラーメンの層間変形角の計算				
9 回	中間試験				
10 回	鉄筋とコンクリートの許容応力度について				
11 回	床スラブの設計				
12 回	梁の曲げモーメント、せん断力と断面性能				
13 回	梁断面の算定				
14 回	柱断面の算定				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	鋼構造				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	熊城 正樹 実務経験：意匠、構造設計事務所主宰				
2. 授業目的	難しいと考えがちな構造計算について、デザインと構造の繋がり。計算式条件等の意味を理解して、構造計算に少しでも興味を持ってもらうこと。				
3. 達成目標	施主との打ち合わせで、押さえて起きたい、構造関係の設計条件を理解し、鉄骨造の、基本算定式を押さえて、応用の為の基礎を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	身の回りの建物の意匠デザインと、風荷重、地震荷重、積雪荷重等との、関連性について、注意を向けて、考えることが出来る様になることが望ましい。				
5. テキスト	図説 やさしい構造設計／浅野清昭／学芸出版				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	鋼構造の特徴、建築基準法との関連				
2 回	構造計画(断面仮定の方法)				
3 回	荷重計算(固定荷重、積載荷重)				
4 回	ラーメン材の剛度、剛比				
5 回	地震力の計算				
6 回	風圧力について				
7 回	風圧力の計算				
8 回	中間試験				
9 回	鋼材の許容応力度について				
10 回	筋かいの設計(1)				
11 回	筋かいの設計(2)(高力ボルト接合、溶接の検討)				
12 回	梁断面の算定(1)(幅厚比、横座屈について)				
13 回	梁断面の算定(2)(許容応力度設計法)				
14 回	柱断面の算定(細長比について)				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築材料				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築物を構成する材料の基本的な特性を理解し、最適な建築材料を使い分ける知識や能力を身につける。				
3. 達成目標	構造の基材となる木材、鋼材、コンクリートから、仕上げを担う様々な材料の種類や特性を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近な建物に用いられる材料について、実際に触れることでその材料のもつ印象や雰囲気を感じてみる。				
5. テキスト	わかる建築学6「建築材料」／吉松賢二、森利弘、佐々木静郎、石橋久義 他著／学芸出版社				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築材料の基本				
2 回	木材の種類、特徴				
3 回	木材の強度、規格				
4 回	コンクリートの概要				
5 回	コンクリートの性質				
6 回	コンクリートの種類				
7 回	鋼材の概要				
8 回	鉄筋の種類と性質				
9 回	鉄骨の種類と性質				
10 回	焼成品の概要				
11 回	ガラス、石材				
12 回	左官材料、ボード類				
13 回	演習問題				
14 回	前期のまとめ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	材料実験				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(前期)	必修	講義	1単位
1. 担当者	湯浅 康生 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築物の構造体となる3つの材料(木材、コンクリート、鋼材)を取り上げ、その力学的性質、物理的特質について、実験を通じて体験的に学ぶ。				
3. 達成目標	個々の材料についての基礎的な知識を身につけるだけでなく、それぞれの材料を比較することで、その特徴や使い方の理解が深まること。				
4. 授業時間外に必要な学修	それぞれの実験を行う前に、建築材料で習った内容について復習しておくこと。				
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	実験レポートの提出や受講態度などを総合的に判断して評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション 材料の歴史				
2回	木材の圧縮強度試験①				
3回	木材の圧縮強度試験②				
4回	木材の曲げ強度試験①				
5回	木材の曲げ強度試験② 木材まとめ				
6回	セメント比重試験				
7回	セメントフロー試験				
8回	コンクリート調合計算				
9回	コンクリート調合・スランプ試験				
10回	セメント曲げ強度試験				
11回	セメント圧縮強度試験 セメントまとめ				
12回	コンクリート圧縮強度試験				
13回	コンクリート引張り強度試験 コンクリートまとめ				
14回	鉄筋の引張り強度試験 鋼材のまとめと3材料の比較				
15回					
備考					

## 講義内容

授業科目	総論構造				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	植田 晋也 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	二級建築士学科試験における構造分野の基礎的な理解を目的とする。				
3. 達成目標	構造の試験において25問中15点程度の得点を目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	構造の試験は7割が法規よりの出題であり、1割は施工と密接な関係を持つ。まずは法規分野の理解を率先して欲しい。				
5. テキスト	厳選問題集500+100 / 総合資格学院				
6. 参考書	特になし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	二級建築士試験における構造の位置づけの説明及び力の釣り合い				
2回	力学① 反力と応力				
3回	力学② 単純梁、静定ラーメンに生じる応力				
4回	力学③ トラスと断面の性質				
5回	力学④ 座屈と荷重と外力				
6回	地盤・基礎				
7回	木構造① 木材と木質材料				
8回	木構造② 木構造				
9回	木構造③ 仕口と接手 枠組壁工法				
10回	鉄筋コンクリート① 材料				
11回	鉄筋コンクリート② 鉄筋コンクリート構造				
12回	鉄骨構造① 材料				
13回	鉄骨構造② 鉄骨構造				
14回	その他構造と材料				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築施工Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	中山 竜宏 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築施工の全体の流れを把握し、工法や安全性などを理解することで建築技術者としての素養を身につける。				
3. 達成目標	建築工事の内、積算、工事契約に始まり、工程計画、仮設計画などの施工計画の基本と、重要な工種の一つである鉄筋コンクリート工事に関して、実際の工事現場の写真や動画による講義を通じて知識を習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	実際の工事現場を目にした際に、その状況を講義で習得した知識を照らし合わせて、自ら考察し建築施工のイメージをより深めていく。				
5. テキスト	「図説 やさしい建築施工」／松本進、白井博史／学芸出版社				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	ガイダンス(建築施工のあらまし)				
2回	施工管理とは				
3回	積算・工事契約				
4回	施工計画				
5回	施工管理(1)				
6回	施工管理(2)				
7回	地盤調査・測量				
8回	仮設工事				
9回	土工事				
10回	基礎地業工事				
11回	鉄筋コンクリート工事(1)				
12回	鉄筋コンクリート工事(2)				
13回	鉄筋コンクリート工事(3)				
14回	鉄筋コンクリート工事(4)				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築施工Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	中山 竜宏 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築施工の全体の流れを把握し、工法や安全性などを理解することで建築技術者としての素養を身につける。				
3. 達成目標	建築工事の内、建築施工Ⅰで学んだ内容(～鉄筋コンクリート工事)以降の鉄骨工事、内外装工事、設備工事及び建物維持管理に関して実際の工事現場の写真や動画による講義を通じて知識を習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	実際の工事現場を目にした際に、その状況を講義で習得した知識を照らし合わせて、自ら考察し建築施工のイメージをより深めていく。				
5. テキスト	「図説 やさしい建築施工」／松本進、白井博史／学芸出版社				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	鉄骨工事(1)				
2回	鉄骨工事(2)				
3回	コンクリートブロック工事				
4回	木工事(1)				
5回	木工事(2)				
6回	防水工事				
7回	屋根工事				
8回	左官工事				
9回	タイル工事・石工事				
10回	塗装工事・建具工事				
11回	内装工事				
12回	外装工事				
13回	設備工事				
14回	建物維持管理				
15回	期末試験				
備考					



## 講義内容

授業科目	建築積算Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	倉西 透 実務経験：建築積算事務所主宰				
2. 授業目的	建築積算手法の習得及び建築積算士補の資格取得。				
3. 達成目標	建築積算の基礎的な内容を理解するとともに、建築積算士補取得を目指すこと。				
4. 授業時間外に必要な学修	二次元である図面に描いてあるものを、立体的に捉えることについて考察してみる。				
5. テキスト	「建築積算」日本建築積算協会PC Mシリーズ				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況、授業へ臨む姿勢、期末試験				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築積算(躯体)概要、設計図書				
2 回	躯体の計算及び計測：土工事①				
3 回	躯体の計算及び計測：土工事②				
4 回	躯体の計算及び計測：土工事③				
5 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事①				
6 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事②				
7 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事③				
8 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事④				
9 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事⑤				
10 回	躯体の計算及び計測：鉄筋工事①				
11 回	躯体の計算及び計測：鉄筋工事②				
12 回	躯体の計算及び計測：鉄筋工事③				
13 回	躯体の計算及び計測：鉄筋工事④				
14 回	躯体積算の振り返り				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築積算Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	倉西 透 実務経験：建築積算事務所主宰				
2. 授業目的	建築積算手法の習得及び建築積算士補の資格取得。				
3. 達成目標	建築積算の基礎的な内容を理解するとともに、建築積算士補取得を目指すこと。				
4. 授業時間外に必要な学修	二次元である図面に描いてあるものを、立体的に捉えることについて考察してみる。				
5. テキスト	「建築積算」日本建築積算協会PC Mシリーズ				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況、授業へ臨む姿勢、期末試験				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築積算(仕上)概要、設計図書				
2 回	外部仕上の計算及び計測：屋根①				
3 回	外部仕上の計算及び計測：屋根②				
4 回	外部仕上の計算及び計測：屋根③				
5 回	外部仕上の計算及び計測：外壁①				
6 回	外部仕上の計算及び計測：外壁②				
7 回	外部仕上の計算及び計測：外壁③				
8 回	外部仕上の計算及び計測：外壁④				
9 回	内部仕上の計算及び計測：内装①				
10 回	内部仕上の計算及び計測：内装②				
11 回	内部仕上の計算及び計測：内装③				
12 回	仕上積算の振り返り				
13 回	建築積算士補 受験				
14 回	建築積算士補試験、建築積算全体の振り返り				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	施工図				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	島崎 潤 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	各種コンクリート躯体図及び内装割付図を作成することにより ①建築施工図とはどのようなものか ②建築施工図の作図方法の基本 ③一般的な建築の納まり詳細を理解する。				
3. 達成目標	各種建築施工図の作成ができるようにする。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近にある建物の、各部の納まりがどのように工夫されているか留意してみる。				
5. テキスト	建築施工図 (市ヶ谷出版)				
6. 参考書					
7. 成績評価	演習課題の提出、出席状況、聴講態度				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築施工図の概要、設計図の読取り				
2 回	基礎伏図の作成				
3 回	基礎伏図の作成				
4 回	基礎伏図の作成				
5 回	基礎断面図の作成				
6 回	基礎断面図の作成				
7 回	1階躯体図の作成				
8 回	1階躯体図の作成				
9 回	1階躯体図の作成				
10 回	1階躯体図の作成				
11 回	1階躯体断面図の作成				
12 回	1階躯体断面図の作成				
13 回	天井伏図の作成				
14 回	天井伏図の作成				
15 回	課題提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築測量実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築測量技術の概要を理解し、測量機器のしくみと取り扱いを習得する。				
3. 達成目標	レベル測量、平板測量、トラバース測量等の基本的な測量の方法、機器の取り扱い、計算方法について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	「図説 測量実習」／藤井 衛、伊集院 博、千葉一雄 著／産業図書				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	授業中行う機器設置の達成度試験、期末試験の評点を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	測量の概要 標尺の読み方、練習問題、器高式野帳の付け方				
2 回	器高式野帳の付け方、レベルの据え付け方、視差の消去法				
3 回	実習 水準測量 レベルの据え付け方、視差の消去法				
4 回	実習 水準測量 レベル (屋外での器高式の練習)				
5 回	実習 水準測量 レベル (屋外での器高式の練習)				
6 回	実習 トラバース測量 トランシットの据え付け方				
7 回	実習 トラバース測量 (角度の測量)				
8 回	実習 トラバース測量 (鉛直の測量)				
9 回	実習 平板測量 平板の据え付け方				
10 回	実習 平板測量 (放射法による測量)				
11 回	実習 平板測量 (進測法による測量)				
12 回	距離測量、面積計算 (ヘロンの公式)				
13 回	角度の計算、レベル野帳の練習				
14 回	問題演習、まとめ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	総論施工				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築施工の総仕上げと、二級建築士受験（建築施工）に備える。				
3. 達成目標	プリント資料を用いた講義により、試験問題のポイントについて学び直す。また、過去問題を用いた解説を行うことで、2級建築士建築施工の実践的知識を習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	過去の建築施工試験問題を丁寧に学習し、不明なところや、理解できていないところを把握することで、正確な知識を習得する。				
5. テキスト	2級建築士試験 学科 厳選問題集 500 + 100 / 総合資格学院 / (株) 総合資格				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験、課題、受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	1. 契約 2. 施工計画				
2 回	3. 監理計画 4. 仮設工事				
3 回	5. 地盤・土工事・基礎				
4 回	6. 鉄筋工事				
5 回	7. 型枠工事				
6 回	8. コンクリート工事				
7 回	9. 鉄骨工事 10. コンクリートブロック工事				
8 回	11. 木工事 12. 防水工事				
9 回	13. 左官工事 14. タイル・石工事				
10 回	15. 塗装工事 16. 建具・ガラス工事				
11 回	17. 内装工事 18. 改修工事				
12 回	19. 設備工事 20. 各部工事融合 21. 施工機械器具				
13 回	22. 測量 23. 積算				
14 回	総論施工のまとめ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	基礎製図				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次(前期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	竹下 和宏 実務敬遠：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	課題のトレースを通じて木造住宅の意匠図の作図法を習得する。また建築図面の表現法や役割について理解する。				
3. 達成目標	製図道具の基本的な使い方、意匠図の作図手順をマスターする。				
4. 授業時間外に必要な学修	建物図面を読み取る訓練をすることで、図面から間取りや構造、意匠などが把握できるようにする。				
5. テキスト	新しい建築の製図 / 学芸出版社				
6. 参考書					
7. 成績評価	授業課題の提出状況、達成度、取り組み姿勢など総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	製図道具の使用法、線の演習				
2 回	木造住宅の配置図				
3 回	木造住宅の平面図 1				
4 回	木造住宅の平面図 2				
5 回	木造住宅の断面図				
6 回	木造住宅の立面図				
7 回	木造住宅のかなばかり図 1				
8 回	木造住宅のかなばかり図 2				
9 回	木造住宅のかなばかり図 3				
10 回	木造住宅の部分詳細図 1				
11 回	木造住宅の部分詳細図 2				
12 回	木造住宅の部分詳細図 3				
13 回	木造住宅の部分詳細図 4				
14 回	木造住宅の展開図 1				
15 回	課題提出				
備考	製図経験者には力量に応じて別途課題を提示する				

## 講義内容

授業科目	設計製図Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1年次（後期）	必修	実習	2単位
1. 担当者	竹下 和宏 実務経験：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	課題のトレースを通じて木造住宅の構造図、RC 複合施設の意匠図の作図法を習得する。また建築図面の表現法や役割について理解する。				
3. 達成目標	木造及びRC造建物の意匠図の作図手順をマスターする。また図面を通じて建物の成り立ちが理解できるようにする。				
4. 授業時間外に必要な学修	建物図面を読み取る訓練をすることで、図面から間取りや構造、意匠などが把握できるようにする。				
5. テキスト	新しい建築の製図／学芸出版社				
6. 参考書					
7. 成績評価	授業課題の提出状況、達成度、取り組み姿勢など総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	木造住宅の基礎伏図				
2 回	木造住宅の床伏図				
3 回	木造住宅の屋根伏図				
4 回	木造住宅の軸組図1				
5 回	木造住宅の軸組図2				
6 回	RC 複合施設の配置図				
7 回	RC 複合施設の平面図1				
8 回	RC 複合施設の平面図2				
9 回	RC 複合施設の平面図3				
10 回	RC 複合施設の断面図1				
11 回	RC 複合施設の断面図2				
12 回	RC 複合施設の断面図3				
13 回	RC 複合施設の立面図1				
14 回	RC 複合施設の立面図2				
15 回	課題提出				
備考	製図経験者には力量に応じて別途課題を提示する				

## 講義内容

授業科目	設計製図Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次（前期）	必修	実習	2単位
1. 担当者	赤澤 輝彦 実務経験：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	1年次において修得した製図の基礎、図面の表現方法等をもとに、与えられた計画条件により設計、製図を行う。期間中3課題を提出する。より多くの学生に設計製図の楽しさを味わって欲しい。				
3. 達成目標	与条件に対して最適な建築計画を目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	普段から、より多くの身近な建築物を見学して設計課題の参考にして欲しい。				
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	課題の提出、出席状況。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション 課題1発表				
2 回	課題1				
3 回					
4 回					
5 回	課題2発表				
6 回	課題2				
7 回					
8 回					
9 回	課題3発表				
10 回	課題3				
11 回					
12 回					
13 回	課題提出				
14 回	課題提出				
15 回					
備考					

## 講義内容

授業科目	設計製図Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(前期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	二級建築士の製図試験に備え、与えられた諸条件を正確に理解し、設計できるようにする。				
3. 達成目標	二級建築士製図試験の概要を把握し、時間内での作図を完成させる。				
4. 授業時間外に必要な学修	課題の内容を十分に把握するため、問題文から計画のポイントを読み取る練習をする。				
5. テキスト	自作プリント				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	課題の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	二級建築士の設計製図について、木造の構造				
2 回	課題1(専用住宅)トレース(1)				
3 回	課題1(専用住宅)トレース(2)、伏せ図の作図方法				
4 回	課題1(専用住宅)トレース(3)、詳細図の作図方法				
5 回	課題1(専用住宅)トレース(4)、				
6 回	課題2(老人同居住宅)プラン(1)				
7 回	課題2(老人同居住宅)配置、平面図(2)				
8 回	課題2(老人同居住宅)伏せ図(3)				
9 回	課題2(老人同居住宅)立面、断面(4)				
10 回	課題2(老人同居住宅)詳細図(5)				
11 回	課題3(店舗付き住宅)エスキス(1)				
12 回	課題3(店舗付き住宅)エスキス(2)				
13 回	課題3(店舗付き住宅)エスキス(伏せ図)(3)				
14 回	課題3(店舗付き住宅)エスキス(詳細図)(4)				
15 回	期末テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	卒業設計				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	赤澤 輝彦 実務経験：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	これまで個々の講義で修得してきた知識の集大成としての建築作品を制作することを目的とする。また、テーマやそれに基づく諸条件を各自で設定することによって、より自由度と完成度の高い作品を目指す。				
3. 達成目標	自分の設計した作品がより多くの人々の共感を得られるために完成度をあげる。				
4. 授業時間外に必要な学修	自分の設定した課題の関連建築物の見学と共により多くの参考建築物の資料収集。				
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	課題の提出、出席状況。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション 課題1発表				
2 回	テーマの決定				
3 回	基本事項のまとめ(1)				
4 回	基本事項のまとめ(2)				
5 回	エスキス				
6 回					
7 回	ドローイング				
8 回					
9 回					
10 回					
11 回	予備日				
12 回					
13 回					
14 回					
15 回	予備日				
備考					

## 講義内容

授業科目	CAD 実習 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1 年次 (前期)	必修	実習	1 単位
1. 担当者	吉見 芳也 実務経験：加計学園勤務				
2. 授業目的	コンピュータやその利用環境の特徴を、CAD を用いた実習を通して理解し、その活用方法を知る。				
3. 達成目標	コンピュータとその利用環境をツールとして、建築分野で活用する方法を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	実際の建物や地域を訪問し、コンピュータを利用して自身のノートを作成してみる。				
5. テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
6. 参考書	Google SketchUp スタandardガイド／船橋仁奈 著／秀和システム				
7. 成績評価	提出された課題の評価と課題への取組態度などを考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	実習環境の紹介と利用準備を兼ねた簡単モデリング実習				
2 回	モデリングソフトのコマンド操作実習①				
3 回	モデリングソフトのコマンド操作実習② (3 面図を用いて)				
4 回	モデリングソフトのコマンド操作実習③ (3 面図を用いて)				
5 回	CAD データを利用した建築モデルの作成実習①				
6 回	CAD データを利用した建築モデルの作成実習②				
7 回	CAD データを利用した建築モデルの作成実習③				
8 回	テーマ課題による建築モデルの作成①				
9 回	テーマ課題による建築モデルの作成②				
10 回	テーマ課題による建築モデルの作成③				
11 回	テーマ課題による建築モデルの作成④				
12 回	テーマ課題による建築モデルの作成⑤ (中間報告)				
13 回	テーマ課題による建築モデルの作成⑥				
14 回	テーマ課題による建築モデルの作成⑦ (成果発表)				
15 回	課題提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	CAD 実習 II				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	1 年次 (後期)	必修	実習	1 単位
1. 担当者	高尾 光俊 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	2 次元汎用 CAD (JW-CAD) の基本的作図操作を身に付ける。				
3. 達成目標	テキストを参照にしながら木造図面 (配置図兼平面図、屋根伏図、立面図、断面図) を完成させる。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	JW_CAD 建築製図入門 / (株) エクスナレッジ				
6. 参考書					
7. 成績評価	提出課題に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	基本的な作図の練習				
2 回	基本的な作図の練習				
3 回	製図の準備				
4 回	製図の準備				
5 回	配置図兼平面図の作成				
6 回	配置図兼平面図の作成				
7 回	配置図兼平面図の作成				
8 回	屋根伏図の作成				
9 回	屋根伏図の作成				
10 回	断面図の作成				
11 回	断面図の作成				
12 回	立面図の作成				
13 回	立面図の作成				
14 回	課題印刷				
15 回	課題提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	CAD 実習Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(前期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	高尾 光俊 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	2次元汎用 CAD (JW-CAD) の基本的作図操作をふまえ、より実践的な2次元 CAD の使用方法を学ぶ。				
3. 達成目標	テキストを参考にしながら木造図面(矩計図)を完成させる。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	JW_CAD 建築製図入門／(株)エクснаレッジ				
6. 参考書					
7. 成績評価	提出課題に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	基本的な作図の練習(復習)				
2 回	基本的な作図の練習(復習)				
3 回	基本的な作図の練習(復習)				
4 回	矩計図の作成				
5 回	矩計図の作成				
6 回	矩計図の作成				
7 回	矩計図の作成				
8 回	矩計図の作成				
9 回	矩計図の作成				
10 回	矩計図の作成				
11 回	矩計図の作成				
12 回	矩計図の作成				
13 回	矩計図の作成				
14 回	課題印刷				
15 回	課題提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	CAD 実習Ⅳ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科夜間部	2年次(後期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	高尾 光俊 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	3次元 CAD (Sketch Up) の基本操作を習得する。 また、実習Ⅰからの集大成として卒業設計のドローイングからプレゼンテーションまで行う。				
3. 達成目標	卒業設計を完成させる。				
4. 授業時間外に必要な学修	卒業設計				
5. テキスト	Sketch Up の一番わかりやすい本／(株)技術評論社				
6. 参考書					
7. 成績評価	提出課題に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	Sketch Up の基本を理解する				
2 回	Sketch Up の基本を理解する				
3 回	住宅の簡易な外観を作成する				
4 回	住宅の簡易な外観を作成する				
5 回	住宅の簡易な外観を作成する				
6 回	住宅の簡易な外観を作成する				
7 回	住宅の簡易な外観を作成する				
8 回	図面印刷、課題提出				
9 回	卒業設計課題作成				
10 回	卒業設計課題作成				
11 回	卒業設計課題作成				
12 回	卒業設計課題作成				
13 回	卒業設計課題作成				
14 回	卒業設計課題作成				
15 回	卒業設計課題作成				
備考					